

YS1-2

NICUにおけるオンライン面会システムの導入とその未来

北畠 康司

大阪大学医学部附属病院・小児科

親子関係は自然に出来上がるものではなく、出生直後から交わされるコミュニケーションによって徐々に形成されていくものだろう。しかしこどもがNICU・GCUに入院した場合、その機会が奪われることになる。近年、Patient- and Family-Centered Care (PFCC) の概念が広まり、当院でも両親の24時間面会やきょうだい面会、祖父母面会などさまざまな取り組みを進めてきた。

しかし2019年から急激に広がった新型コロナウイルス感染症の流行は、そのようなNICUにおける数々の取り組みが白紙に戻ってしまった。全国の病院で厳しい面会制限が行なわれ、生まれてきたわが子に会うことができないというご家族が続出している。このような状況下、当院では「入院中の赤ちゃんに、わが子に会いたい」実現プロジェクトが立ち上がった。個人情報大切に守りながら、いつでも、どこからでも、わが子に会っていただくことのできる“ウィズコロナ時代のオンライン面会システム”の構築を目指すものである。重要なポイントは、1. セキュリティ（映像の取り違いなどのリスクをなくし、患者の個人情報を守るということ）、2. 持続性（使用する医療スタッフにストレスをかけることなく、持続的な運用を可能とすること）のふたつであり、様々な選択肢について検討した結果、既存のwebミーティングシステムの利用ではなく、オリジナルのシステム開発を目指すことを決断した。しかしオリジナルシステムの開発には大きな費用が必要となる。そこで当院ではクラウドファンディングプロジェクト「新型コロナ：入院中の赤ちゃんに24時間会えるシステム構築を！」に取り組み、最終的に1100人を越える方より支援が集まった。現在、NICU・GCUに加えて、小児病棟、成人認知症病棟への応用も進められており、病棟単位での話し合いを重ねている。

このオンライン面会システムは、コロナ禍による面会制限時にのみ役立つものではない。遠方に住む家族への病状説明やインフォームドコンセントの取得、夜間緊急時の当直医へのアドバイスなど、オンライン診療にも続いていくことが期待される。本シンポジウムでは、この大きな可能性をもつシステムについての概要とこれまでの経緯、そしてその将来について紹介したい。